

令和6年度運営方針の策定について

「運営方針」は、各所属における当該年度の施策の選択と集中の方針を明示し、その概要を示すものです。

今後の流れ

- ☑ 令和6年2月中旬
運営方針(案)の公表
- ☑ 令和6年3月中旬
区政会議開催
- ☑ 令和6年4月上旬
運営方針の確定・公表



令和6年度の西淀川区の
「目標」「使命」「所属運営
の基本的な考え方」は
次のとおりです！

令和6年度運営方針の策定について

01

目標

「活気があり、笑顔にあふれ、常に進化するまち」

02

使命

- ☑ 地域のつながり意識を醸成し、住民同士や事業者間の連携を強化することで、子育てしやすく安全・安心できれいなまちづくりを実現させ、まちに更に活気が出るよう区の魅力向上を図る
- ☑ 区民の皆様と課題を共有しさまざまな面で更なる進化をめざし、「住むなら西淀川」と言われるようなまちづくりを進める

03

基本的な考え方

- ☑ 住民同士や事業者間のつながりを大切に、地域が主体的に活動できるよう支援
- ☑ 地域活性化のため、区民や事業者等の新たなつながりの創出や更なる連携強化
- ☑ 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取組を推進
- ☑ 様々な活動主体と共に創してまちの魅力を向上

令和6年度運営方針の策定について

説明内容

令和6年度に特に力を入れて行う事業を説明します。

- 01 …区制100周年(2025年)に向けた、共創による「選択されるまち」としてのまちの魅力向上
- 02 …こどもたちがいきいきと育つ環境整備
- 03 …地域コミュニティの機能向上
- 04 …防災力の強化
- 05 …誰もがいきいきと暮らせる温かいまちづくり



令和6年度 西淀川区運営方針

(重点的に取り組むもの)

経営課題

区制100周年(2025年)に向けた、共創による 「選択されるまち」としてのまちの魅力向上

課題 認識

- ・西淀川区においても今後、高齢化・人口減少が見込まれている。「住むなら西淀川」と言われるように、SDGs推進、健康寿命の延伸の取り組み先進区を目指し、共創によりまちの魅力向上を図る必要がある。

戦略 ・ 行動

- ・「にしよどがわ万博」を開催し、多くの区民、団体、企業等を巻き込み SDGsを推進
- ・官民共創を主体とした「ウェルビーイング西淀川」における取組
「区民のがんリテラシーの向上」「区内企業の健康経営の推進」
- ・区役所公式LINEなどの更なる充実等による「伝わる情報発信」

指標

- ・「まちの魅力向上をめざして以前より区役所の取組みが進んでいる」と
感じる区民アンケート回答者の割合:令和5年度実績+10ポイント
- ・にしよどがわ万博に関与する区民数:1万人以上
- ・「がん検診を受診しつづけている」と回答したLINEアンケート回答者の
割合:令和5年度実績+5ポイント
- ・LINE友だち数:令和7年度早期に10,000人(6年度:8,500人以上)

経営課題

こどもたちがいきいきと育つ環境整備

課題 認識

- ・孤独・孤立を防ぎ、こどもと保護者に寄り添う支援が必要



戦略 ・ 行動

- ・スクールカウンセラーの配置を拡充し、学校で児童生徒やその保護者の悩みに寄り添うことができる体制をつくる
- ・主に就学前のこどもと地域の子育て支援機関をつなぐコーディネート機能を担う利用者支援事業において、「こそだてコンシェルジュ」が子育ての悩みに寄り添い、子育て支援の各種サービスの案内や保育所入所にかかる相談を行う

指標

- ・「教育環境や子育て環境が以前より良い」と感じる区民アンケート回答者の割合:50%

こどもたちがいきいきと育つ環境整備

～令和6年度に重点的に取り組むもの～

孤独・孤立を防ぐ



全小中学校に週1回、
スクールカウンセラーを配置



経営課題

地域コミュニティの機能向上

課題 認識

新たな時代に対応した地域コミュニティの機能の構築及び強化

- ・防災・防犯のためにも、人と人とのつながりの希薄化への対策が必要
- ・地域の担い手となる人材の確保・育成

戦略 ・ 行動

・新たにマンションが着工されるエリアの町会の意向を確認した上で、町会加入について**建築事業者等へ強力に働きかけ**

・希望する町会に対して**町会加入促進計画**を作成し、地域と一体となって町会加入促進対策

・市民活動団体に対して**担い手不足についてヒアリング**を実施し、関連団体との連携を促進、体制・機能の再構築を支援

指標

・町会加入率:令和8年度末までに70%(5年度:65.4%)

・町会加入促進の取組が促進されていると感じる連合町会長の割合:80%

・町会加入促進の効果を感じる連合町会長の人数:4名以上(8年度:14名(全会長))

経営課題

防災力の強化

課題 認識

- ・災害時に単独では避難が困難な方に対する個別避難計画の作成
- ・防災に対する意識、備えにおける区民・企業理解の差を解消し、一定の理解を確保
- ・女性視点や多様性配慮の視点を考慮した避難所運営

戦略 ・ 行動

- ・地域や福祉医療専門職と連携して、**優先度の高い避難行動要支援者**の個別避難計画を重点的に作成
- ・小中学生対象の防災教育プログラムの拡充
- ・**地域・学校・企業等と連携した防災訓練等**の実施により、若年層・企業等の防災の関わりを強化
- ・女性視点や多様性配慮の視点を反映した**備蓄物資**の配備

指標

- ・優先度の高い要支援者の内、特に支援が必要な要支援者で、作成を希望する人の個別避難計画を令和8年度までに作成(6年度:全体の3割以上)
- ・防災教育プログラム実施支援を令和7年度までに全校で実施(6年度:5校 7年度:6校)
- ・多様なメンバーの参加による多様な視点に配慮した防災活動が行われていると感じる地域の割合:令和5年度実績+10ポイント

経営課題

誰もがいきいきと暮らせる温かいまちづくり

課題 認識

- ・日常生活に関わる様々な問題や課題を、住民の方と行政や関係機関等が連携・協働して改善・解決につなげる仕組みの推進
- ・様々な専門的な相談機関による、分野を横断した総合的な相談支援体制
- ・職員の福祉力の強化

戦略 ・ 行動

- ・地域包括支援センター、ブランチ、基幹相談支援センター、民生委員・児童委員など異なる分野の関係機関による学習会・連絡会を開催
- ・職員の中で課題にあがっているテーマについての研修を複数回実施
- ・「福祉語ろう会」「ちょこっと♡助っ人ボランティア制度」「ウェルカムバンク」「となりのお節介さん」の制度や具体的な取組みについて、区内事業者や地域で活動している方へ積極的に情報提供

指標

- ・「困った時に地域で相談できる相手がいる」と感じる区民アンケート回答者の割合:75%以上(令和6年度に80%以上、令和7年度に85%以上)
- ・「ちょこっと♡助っ人ボランティア制度」登録者数を40名→80名、「となりのお節介さん」認定者数を20名→40名に増やす